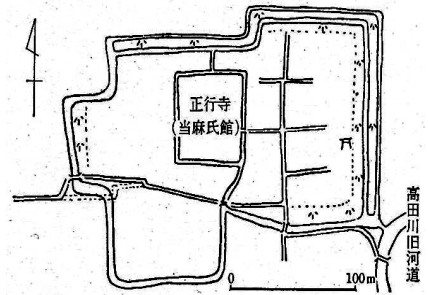


**現地の説明板** 大和平野の中心部には、環濠集落が多くみられる。中世において、水利と自衛のために造られた。大和高田市にも、松塚、土庫(どんこ) 藤森、池尻、岡崎、磯野などに環濠が残っているが、中でも二重環濠の有井が有名である。

ここは、文明年間、一向宗蓮如に帰依した当麻とうま為綱ためつなが居館を正行寺とし、寺と村を囲む二重環濠集落となった。有井の地名は弘法台師伝説の弘法井戸に由来するという。



148 有井環濠復原図

今でも有井の集落に入ると「当麻」姓が多いのに気がつく。当麻は「とうま」である。現在、正行寺となっている中央の方形の部分は、中世この地に番拠した土豪の当麻氏の居館跡といわれ、その周りの集落と環濠は外郭と外堀だった。

当麻氏は古代豪族の「たいま當麻氏」の末裔といわれ、その発祥は用明天皇の皇子、の麻呂子王に遡る。麻呂子王は聖徳太子の異腹の兄弟で、氏族には壬申の乱の功績で真人の姓を賜り軽皇子(文武天皇)のたいふ大傅となった當麻国見や、舎人親王に嫁ぎ政争で淡路島に幽閉される淳仁天皇の母の當麻山背などの名が見える。平安期にも天皇家と深く関わる名門貴族として、朝堂で重要な地位を占めていた。

當麻氏は二上山麓の當麻の地を本拠とし、當麻寺はもちろんその氏寺、その當麻氏が高田を一族発展の地と定め、この地に郎党、郷民を含め移り住んだのは鎌倉時代の初めといわれる。

平安時代の半ば以降朝廷の権威は落ち、藤原氏以外の貴族の中には一族の本願地や国司として赴任先で郷土として自立するものが現れたが、おそらく當麻氏も次第に中央政界から離れ、古代貴族から中世の土豪に生れ変わったのであろう。

この有井の館に何時ごろから彼らが居たのかは分からないが、説明板の有井為綱の祖父で高田城を築いた為貞は、この有井の館に居たことは確からしい。

為綱は文明年間(1470~80年代)に一向衆に帰依して居館を寺にしたとある。文明年間といえば応仁の乱の頃で、加賀の国では一向衆が城主の富樫氏を追い出して一国を支配していた時で、もちろん蓮如が活躍していた頃である。

高田ではどうも当麻氏の嫡流は高田城に移り高田当麻氏と名乗り、元の有井は一向門徒に明け渡した……。領主自らが一向宗に帰依したことももちろん考えられるが、配下の土民たちが一向宗徒になってしまって領主を城館から退去させ、その館が寺になったということも、風の噂に聞いたことではある……。